

第107回東北地方交通審議会
船員部会 議事要録

平成29年 9月22日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会 第107回船員部会

日 時 平成29年9月22日（金） 15：30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員：長谷部部会長（欠席）、高橋（真）部会長代理、
佐々木委員（欠席）、森委員
労働者委員：熊谷委員、高橋（雅）委員、津田委員（欠席）
使用者委員：齋藤委員、白幡委員、平岡委員

運輸局：畠山海事振興部長、阿部海事振興部次長
和田船員労働環境・海技資格課長
澤村船員労政課長、大友労政係長

議 題 （1）管内の雇用等の状況について

（2）その他

配付資料

- 資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（7月分）
- 資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）
- 資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）
- 資料4 新規求人・求職数（全国）
- 資料5 有効求人・求職数（全国）
- 資料6 有効求人倍率（東北管内）
- 資料7 有効求人倍率（全国）
- 資料8 船員の特定最低賃金の改正に係る意見聴取の公示
- 資料9 平成30年度 海事局関係 予算概算要求概要
- 資料10 新聞情報

議 事 概 要

◎開 会

【阿部海事振興部次長】

〔第105回船員部会の成立について報告〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【高橋部会長代理】

ただいま事務局から報告がありましたように、長谷部部会長が所用のため欠席されましたので、私が代わって議事を進めてまいりますので、よろしく申し上げます。

それでは、早速議事に入りたいと思います。

お手元にあります議事次第の「議題（1）管内の雇用等の状況について」、事務局から報告をお願いします。

〔澤村船員労政課長から資料1～7に基づき報告〕

【高橋部会長代理】

ただいまの報告内容について、何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

ないようですので、ご了承いただいたものといたします。（「はい」の声あり）

(2) その他

【高橋部会長代理】

続きまして、「議題（2）その他」に入ります。

まず最初に、資料8について事務局のほうからお願いします。

〔澤村船員労政課長から資料8に基づき説明〕

【高橋部会長代理】

ありがとうございます。ただいまの説明内容につきまして何かご意見、ご質問ありませんでしょうか。（「なし」の声あり）

ないようですので、次に委員の皆様から情報提供をお願いいたします。

初めに、労働者委員のほうから情報提供をお願いします。

【高橋労働者委員】

11月6日から8日まで、全日本海員組合の定期全国大会が開催されます。場所は、地方大会ということで沖縄県の宜野湾市にある「沖縄コンベンションセンター」というところで開催されます。

以上です。

【熊谷労働者委員】

小名浜地区には、遠洋マグロ船の3者で構成する福島県鰹鮪漁業者協会という団体があります。そこにおいて、いわき地区遠洋マグロ漁業地域プロジェクトということ

で、国の漁業構造改革総合対策事業の「もうかる漁業」を使っただけのプロジェクトが立ち上がり、今月の19日に第1回の地域協議会の作業部会と合同会議が開催され、当方はオブザーバーとして出席しました。その中では、今、遠洋マグロ船3社4隻ありますが、会社の後継者がいないということでした。1社だけは若い方が社長になっていますが、ほかは後継者がいません。これをどうするかという中で、今後3社経営体を再編統合して新たな会社を立ち上げて、また今ある4隻のうちの1隻はまだ新しいのですが、ほかの3隻の船齢が30年超えという状況なので、新しい船をつくっても後継者がいなくて先が見えないという状況のもとで、今回2隻を国の支援の「もうかる漁業」に乗せて建造するという方向性になりました。

以上です。

【高橋部会長代理】

ありがとうございます。

そうしますと、今ある3社を1社にして、そして、今ある4隻とは別に2隻つくるということですか。

【熊谷労働者委員】

今3社4隻あって、A社で1隻、B社で1隻、C社で2隻と持っていますが、その中の2社の代替新造ということで2隻つくるという形です。ただ、これから地域協議会を複数回開催して、それを中央に上げて、中央の協議会で承認されればスタートとなる訳ですが、まだ先の話となります。

【高橋部会長代理】

後継者不足というのは、かなり深刻ですね。

【熊谷労働者委員】

次の代がないみたいですね。

【高橋部会長代理】

ありがとうございました。それでは、使用者委員のほうから情報提供をお願いしますか。

【平岡使用者委員】

新聞情報の13ページにも載っていますけれども、海技教育機構の練習船の青雲丸で、7月に実習で乗船していた海技大学校の男子学生が自殺、自殺未遂、失踪と1ヶ月に3件起きました。青雲丸は7月1日から、商船の船員を目指す海技大学校や商船系大学の学生127人らを乗せて、航海士や機関士など各資格取得に必須となる乗船実習を行っていました。神奈川県沖で停泊中だった7月13日、学生は海に飛び込み自殺を図りましたが、近くの海岸で無事発見されました。「船員としての仕事に対して不安になった。」と教員に話したそうです。22日には実習を続けるかどうか悩んでいた学生が、家族と相談するため下船し、数日後に自殺しました。また、30日には名古屋港に停泊中の自由時間に上陸した学生が、保護者にメールで「失踪する。船の道には進みたくない。」と伝え、行方不明になりました。

船員を目指す学生がこのようなことになって、とても残念です。マスコミにも取り上げられて、船員不足の中、船員という職業に対するイメージダウンが懸念されます。

国土交通大臣は海技教育機構に対し、第三者委員会を設定し、原因究明や再発防止に努めるように指示したそうですが、やはり一日も早く健全に船員を育成する体制をつくり上げていただきたいと思います。

【高橋部会長代理】

ありがとうございます。

【森公益委員】

ご心配をおかけしました。そこに載っているとおり、第三者委員会を立ち上げまして、原因の調査と今後の対応を検討しているところです。まだ、時間がかかるようですが、その結果が出たら、また本部のほうから発表があると思います。

【平岡使用者委員】

テレビでも結構報道されていまして。イメージダウンになるので、報道してほしくないと思いました。だけど、原因はあるはずですから、そこを突き止めないと。

【高橋部会長代理】

これは、本人の不本意という話の構造なのですか。

というのは、大学の場合でも、入ってすぐやめるという学生が結構多くいます。要は高校の進路指導の先生と親御さんが大学進学を勧めるが、勧められるまま入ったら違ったということで、学校に来ない、退学する場合も多いです。この記事を見ると、本人は何も考えないで親御さんなり高校の先生から勧められるまま船に乗ったものの、実は合わなかったという構造なのかなと単純に思いましたので、質問しました。

【平岡使用者委員】

それもあるかもしれないですね。

【森公益委員】

そういう意味では、海上技術短期大学校における昨年の入学倍率が平均で2.07でした。そのぐらいの倍率で入ってきておりますので、一時期よりは船員志望の強い子が入ってきている状況でこういうことが起こったので、なぜなのか、今それも調べているところです。

【熊谷労働者委員】

本当にイメージダウンですからね、あのニュース。

【高橋部会長代理】

そうですね。

【平岡使用者委員】

やめてもらいたい。

【白幡使用者委員】

命を絶つほどのことではないですよ。

【高橋部会長代理】

ただ、余談になるかもしれませんが、電通の過労死のお話ですけど、なぜその手前の段階で親とか誰かに相談しなかったのか、相談すればよかったのではと思います。何かそこが短絡的になっている感じもして、若い人たちの考え方が私たちのときとは違うというか、ゼロか100かの選択になっているような感じもします。

また、小学生に「人間は死んだ後、生き返りますか。」という質問をすると、特に低学年の場合だと、生き返るという答えが大体3割、4割いるという話です。要はゲーム等では、全部リセットすると生き返るという訳です。聞くとちょっとゾッとしますよね。

そのほか、ありませんか。

使用者委員からサンマの話題とか何かありませんか。

【齋藤使用者委員】

サンマはマスコミ報道のとおり例年になく不漁でして、原因がなかなかわからないというか、海のことというのは本当にわからないことが多いです。外国漁船の先取り、あるいは沿岸に寄る前に沖で沖取り、そういったことが相当影響があるのではないかとはいわれていますが、それも恐らく一つの要因であろうと思います。獲れないのも困りますが、魚体のサイズが痩せていて、非常に困っております。

また、カツオの不漁も、大方の見方はやはり外国の大型漁船が南方海域で相当獲っていることが原因ではないかと言われています。北上群というか、北に上がってくるカツオが減っていて、上がったカツオはまた南下して戻りカツオになりますが、その戻りカツオが出てこないということが起こっています。気仙沼の漁業関係、加工関係の方、皆さん困っています。

【高橋部会長代理】

漁業の仕方を根本的に変えないといけないぐらいまでのところに来ているということですか。つまり、従来型の獲り方とは違う形に変えないと漁獲量を確保できない、ちょっと危ないところまで来ている感じなのですか。

【齋藤使用者委員】

その辺は非常に難しいと思います。何というか、要は魚そのものが減っても船から魚を探す能力がよくなったり、魚を獲る能力がよくなったりすると、見かけの漁獲量は維持することができます。

ただ、それがどこまでいいのかは、非常に微妙です。

【高橋部会長代理】

なるほど、ありがとうございます。そのほかありませんか。

【高橋部会長代理】

それでは、森委員から提出された資料について、ご説明をお願いします。

【森公益委員】

昨年から海技教育機構7校の学校の求人状況について、3カ月に一遍程度この部会でご紹介させていただきましたので、今年も引き続きご紹介する形で資料を用意しました。海上産業求人状況の年度別比較状況ということで、27年度、28年度、29年度の8月31日現在の数字を上げています。

左側の分類は、内航船関係の分類です。この右上に米印に書いてありますとおり、水産系及び公務員も求人が来ていますが、この2つは除いています。

まず左上の表の上からいきますと、外航労務部会の求人は昨年度11名が今年8名、前年度比72.7%。その他外航は昨年度22名が今年37名、プラス15名で168.2%。内航

関係を見ますと、内航3団体加盟の会社は昨年102名が今年119名、プラス17名の116.7%。その他内航は昨年度461名が今年434名でマイナス27名、順調に増えていたのですが、今年は少し減っています。内航関係を2つ合わせますとマイナス10ということになります。タグ・作業船は前年度が164名、今年度が191名でプラス27名、116.5%。旅客船協会、いわゆるフェリーは前年度127名、今年161名でプラス34名と、126.8%になります。

トータルでは、前年度887名が今年950名で、プラス63名。この950だけを使いますと、海技教育機構の学生7校で390名定員ですので、倍率にしますと2.44倍になります。

下の折れ線グラフは、新年度の求人は3月1日から始まり、6月30日が求職活動の解禁日ということで、6月30日から数字を上げております。3月1日から6月30日まで毎年のことですが、急激に右肩上がりになって、その傾向が7月の終わりまで続くような傾向になります。

トータルで、昨年度は996名の求人が来ていますが、その内の900名ぐらいの求人が8月31日までに来てしまいます。それから徐々に右肩上がりになっていくというような毎年の傾向になります。ですので、ほとんど今の段階で既に95%ぐらいは求人が来ているというような状況になります。

海技短期大学校は9月10日に練習船を下船しまして、9月30日まで休暇、その後10月1日から3船目に乗船します。この9月10日から9月30日までの20日間は、入社試験等が一齐に行われる時期で、10月1日以降内定が出ることになります。ここで内定できなかった者は、次の第3船目の下船が12月10日ですので、ここから12月の終わりまでに入社試験を行って、ほとんど100%内定が決まるというような状況になっております。

以上です。

【高橋部会長代理】

ありがとうございました。何かご質問ありますか。

【齋藤使用者委員】

すみません、今、何校で390名とおっしゃったのですか。

【森公益委員】

7校です。本科という高校と同等の学校が4校ありまして、ここが140名程度です。それに加えて短期大学校が3校あります。こちらで250名です。

【高橋部会長代理】

よろしいですか。

ありがとうございました。そのほかございますか。

では、ほかにないようですので、本日の議事は終了といたします。

次回の船員部会は、10月27日金曜日の午後3時30分から、会場はここ4階の会議室で開催いたします。

◎閉 会

